

令和 5 年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

国語科 1 年生

1 日常の学習状況について

本校現 1 年生の国語の学習状況については以下のような特徴が見られる。

- ・ 落ち着いて学習に臨むことができている。授業中の活動にも真剣に取り組むことができている。考えの過程や自分以外の意見を含めてノートを書こうとする意欲が多くの生徒に見られる。一方で、発言する生徒が固定化しており、積極性に欠ける面もある。
- ・ 一斉授業の中で流れについて行けない生徒に対し、個別の支援が必要な場合がある。
- ・ 「知識・技能」については、生徒によって習熟度に差が見られる。漢字や文法等の基礎的な部分に苦手意識をもつ生徒が授業についていけないことがある。
- ・ 「思考・判断・表現」については、基礎的な読解力は身に付いているものの、読解した内容に対して自分の意見をもつことが苦手な生徒が多い。
- ・ 学習者用端末を用いた授業では、意欲的に活動に取り組む生徒が多いため、生徒間での意見の共有等に活用している。
- ・ 自らすすんで読書を行う生徒が多い。

2 中間考査、期末考査等の結果を踏まえて

- ・ 基本的な読解力が身に付いている生徒は多いが、語彙力や表現力などが不足している生徒もいる。
- ・ 漢字の「読み」「書き」については、教科書本文に出てくる熟語等の正答率が高い。日頃からこまめに復習に取り組んでいることが分かった。新出音訓は比較的正答率が低い。授業内で丁寧に扱う必要がある。
- ・ 「文法」については、文節や単語等、基礎的な知識が身に付いている。複合語等は正答率が低い。今後品詞等の学習の際に違いを理解することで知識を定着させたい。
- ・ 「読解力」については、書き抜き問題や文章の構成に関する問題は正答率が高い。解答を本文に基づいて考えることができている。
- ・ 「記述力」については、問いに正対する答え方ができていない面がある。文末表現や原稿用紙の使い方等を復習するとともに、要旨や結論を端的に見つけることが今後の課題である。

3 学力に関する状況

以上のことから本校現 1 年生の国語の学力については以下のような傾向が見られる。

- ・ 意欲的に授業に取り組む姿勢が整っており、他の生徒の意見から学んだり、それを踏まえて自分の意見を発展させたりしようとする姿勢をもった生徒が多い。
- ・ 習熟度や意欲の差が生徒によって大きい。
- ・ 自分の意見を全体で発表したり、表現したりする力が不足している。
- ・ 原稿用紙の使い方や問いに正対した文末表現等、基礎的な知識の復習の必要がある。

4 教科の課題

(1) 学習面

- ・ 全体で自分の意見を発表することが苦手な生徒が多い。
- ・ 主体的に復習に取り組むことができている生徒に偏りがある。

- ・ 自分の考えを文章の構成に沿って組み立てたり、具体例を挙げて考えたりすることができる生徒が少ない。
- ・ 問題の意図を理解することができるよう、様々な問題の形式に慣れる必要がある。
- ・ 国語が苦手な生徒に対して、本文を正確かつ丁寧に読み解いていく練習が必要である。

（２）指導面

- ・ 一斉指導のあと、個別に指導する時間を確保する。
- ・ 漢字や新出語句の学習だけでなく、読書、話し合い活動などの中で新しい言葉と出会い、自ら必要に応じて使うことができるよう日々の授業の中で指導する。
- ・ 生徒一人一人に役割をもたせた話し合い活動をする。

５ 授業改善について

（１）学習面

- ・ 新出語句を身に付けたり、辞書を引く時間を確保したりすることで活用できる語彙を増やし、語感を磨く。
- ・ 便覧を活用し、国語に関する知識を身に付けさせる。
- ・ ワークシートを活用し、文章理解力や表現力を身に付けさせる。
- ・ 言語事項等について、知識を活用して考える課題に取り組ませることで、学習内容と生活を結び付けて考えさせる。
- ・ 多様な文章に触れ、要旨や筆者の意見を明確に捉える力を養う。
- ・ 単元ごとの振り返りの活動等を通して、文章の内容に関して自分の意見をもち、表現する力を養う。
- ・ 作文や意見文、プレゼンテーションなどで生徒同士の意見を交換する活動を充実させ、情報の受け取り手としての視点をもたせることで、自分の表現を客観的に見つめなおす力を養う。
- ・ 発表の型や方法を提示することで、発表や発言に対する苦手意識を減らす。
- ・ 様々な形式の問題に取り組ませることで、問いに正対した形で答えることができる力を養う。
- ・ 字数等の制限がある記述の問題の練習を定期的に行い、文章の構成力を高める。

（２）指導面

- ・ 授業の流れや目標を明確にすることで、生徒に５０分間の見通しをもたせる。
- ・ 生徒のつまづきに応じて教材を活用し、きめ細やかな指導を行う。
- ・ 活動の前に自分の意見や考えをまとめる時間を確保するとともに、発言しやすい雰囲気やグループワークのルールを作る。
- ・ 評価のポイントを明確にし、生徒が目標をもって学習に取り組めるよう指導を行う。
- ・ 机間指導をし、個別に指導できる時間を確保する。

６ 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和４年度末に以下の方法で評価する。

（１）観点別学習状況の評価の学期ごとの比較

（２）中間考査、期末考査の結果の考察

（３）授業で使用したノートやワークシート、授業に関するアンケートの考察

令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

社会科 1年生

1 日常の学習状況について

歴史分野では、小学校での既習事項の中で、特定の人物を通じて歴史を大きな流れとしてとらえて学ぶことができる生徒が多い。また生徒の中には、関心の深い事項や人物において、多くの知識をもって前向きに学習に取り組んでいる生徒がいる。そのため個人の学習段階に大きな差異が見受けられる。単元ごとに振り返る機会を多く設けている。

地理分野での学習では、世界の気候や世界の諸地域の学習を通して、日本と世界のつながりに興味・関心を持ち、積極的に学ぶ生徒が多い。特に世界の国々の様子について、意欲的に学ぼうとする姿勢がみられるので、視覚資料に工夫をもたせることを授業の中で心掛けている。

2 中間考査、期末考査等の結果を踏まえて

- (1) 世の中のできごとと社会科の学習につながりを持ち考えることができる生徒がまだ少ない。
- (2) 知識を問う、短答式の問題は家庭学習や授業での反復学習により定着度が高い生徒と、学習習慣が確立できていない生徒に分かれる。
- (3) 思考・判断・表現を問う、記述式や選択式の問題や技能を問う問題に関しては生徒により理解度に大きな差が見られる。

3 学力に関する状況

以上のことから本校の現1年生の社会の学力については以下のような傾向が見られる。

- (1) 授業に取り組む姿勢が高く、基礎基本の知識力は非常に高い。
- (2) 資料を活用して、課題を解決しようとする力について、さらなる働きかけや資料の読み取り方を工夫させる必要がある。

4 教科の課題

(1) 学習面

基礎基本的な知識の取得および学んだ知識を活用する力を身に付けさせること。生徒間の理解度の差をちいさくできるように、個に応じた指示や課題の提供を行う

(2) 指導面

生徒が興味をもって学習に臨めるために視聴覚教材を工夫すると同時に、演習問題を通じて、知識の活用を図れる機会を設ける。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ・知識技能の拡張を図ることが出来るような反復学習ができる教材の提供を行う。
- ・自身が得た知識や情報をまとめることができるような表現の場、もしくは課題を定期的に設ける。

(2) 指導面

- ・毎時間視聴覚教材を使うように努力し、定期的に生徒の学習習熟度を確認するためのテスト(コンテスト)を一年間継続して行う。
- ・授業や長期休業などを利用して、調べ学習を行い、自分が調べたことを自分の言葉でまとめ発表するなど一ヶ月に1回以上、グループ学習を授業で取り入れて、主体的に授業に臨むことができる場を設ける。

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和5年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 単元ごとに習熟度を確認できる復習プリントの活用と、コンテストの実施を行う。
- (2) 日々の学習と中間考査、期末考査のつながりをもたせ、その後に結果の考察・改善を行う。
- (3) 生徒の授業評価を受けて、わかりやすい授業を推進するために学習環境を見直し、指導する場面での表現をより簡潔に行う。
- (4) 適切な評価基準の中で、生徒の意欲伸長につながるような教材の工夫を行う。

令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

数学科 1年生

1 日常の学習状況について

1年生の数学の学習状況については以下のような特徴が見られる。

- (1) 基礎的な四則計算の理解度はあるが、四則混合計算になると苦手意識をもつ生徒がいる。
- (2) 正負の数の基本的な計算などの理解はするが、繰り返しの家庭学習が身に付いていないため、分数・累乗・カッコを含む計算問題などではミスが目立ち定着していない。
- (3) 積極的に取り組む生徒が多く、授業中の発言も多い。

2 中間考査・期末考査等の結果を踏まえて

- (1) 小学校の振り返りでは、基本的な計算は出来ていた。
- (2) 分数の加法、減法において約分忘れが多く見られた。約分のチェックをするよう指導を行う。
- (3) 四則計算の順序のミスが多く見られた。計算のルールを理解させ、四則計算の計算ルールを確認して、問題を把握してから計算する指導を行う。
- (4) 知識を問う問題に対して正解率が大きく下がる傾向がある。問題の意図を読み取り答えていく練習を日頃から意識して取り組ませる。
- (5) 文章を読むことに抵抗がある生徒が多く、文章が長い問題になると、問われていることが正確に答えられない。普段からの授業で、多く扱い指導を行う。

3 学力に関する状況

本校の1年生の数学の学力については以下のような傾向が見られる。

- (1) 単純な計算問題、特に整数の計算についてはしっかりとできる。しかし、分数、小数の計算や、文章を読み、考えて問題を解くことが不得意である。
- (2) 特別な支援、指導が必要な生徒(掛け算九九や二ケタの引き算ができない)が各学級に数名いる。
- (3) 途中式や式の書き換えが苦手な生徒が多い。

4 教科の課題

(1) 学習面

- ・ かけ算九九などの基礎基本の理解を確認し大切にする。
- ・ 問題の意味を考え、思考力や判断力を問う問題の解法について理解を高める必要がある。
- ・ 夏季休業中の補習や定期考査前の質問教室等を利用して、基礎の計算を苦手になっている生徒の学力向上。

(2) 指導面

- ・ 問題集を提出させることで問題演習の機会を設けているが、反復練習が出来ていない。
- ・ 個別指導を必要としている生徒が多い。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ・ 50分の取組で何を理解しなければならないのかがわかるよう本時のめあてを明示し、授業を行う。
- ・ 基礎基本を重点にして、繰り返し問題練習に取り組む。
- ・ TT 授業を活用して、個別に対応できるようにする。
- ・ 問題演習の充実では、授業や家庭学習を通して、基礎的な問題の演習量を確保して計算力を高める。
- ・ 生徒同士で教え合う場を設け、理解を深めさせる。

(2) 指導面

- ・ 質問教室や夏休みの学習教室を通して、個別指導を行う。
- ・ 夏休みの課題で基本的な1学期の計算問題の反復練習を行う。
- ・ 問題集の確認後、理解していない生徒に対して再提出等の適切な指導を行う。

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和五年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 観点別学習状況の評価の学期ごとの比較
- (2) 中間考査、期末考査の結果
- (3) 単元まとめプリントの内容

令和5年度 小平市立小平第三中学校 授業改善推進プラン

理科 1年生

1 日常の学習状況について

生徒の興味・関心や扱う内容にもよるが、意欲的に授業に取り組んでいる生徒が多い。また、質問に対してほとんどの生徒が発言を行うことができる。ただし、思考して答える問題は少し苦手である。

授業の展開としては、観察・実験を行い、結果を基に思考するという流れを作っている。
課題のワークブックの提出状況は良好である。観察や実験に対して楽しく前向きに取り組んでいるが、予習などをして実験の手順をよく理解し行える生徒は少数である。

2 学力調査等（定期考査）の結果の教科別・観点別分析

小テストを用いることで定着の振り返りをする時間をつくることができたが、理科のワークの内容と同じような問題でも、思考をともなう問題や数学的な文章問題については、正解率が低く、暗記すべき物や一般的な問題については正解率が高かった。課題は読み取る力・解決する力の2項目である。文章理解、問題解決能力の向上を身に付けるための授業展開を導入していく。

3 学力に関する状況

- (1) 思考・表現に関する問題は、取り組み不足が現れており、十分に定着されていない。
- (2) 最近学習した学習内容は定着している部分もあるが、時間が経つと復習問題の正答率が低く、再度復習が必要である。
- (3) 授業の事象について「なぜ？」の質問に対して説明することなどに不安がある生徒が少々見られる。
説明することに対する苦手意識を減らすため、一つ一つの質問に丁寧に答えさせ、自信をつけさせていく。

4 教科の指導上の課題

- (1) 生徒の思考する時間を十分にとり、発言する機会を多く設けて説明に対するハードルを下げるができるようフォローをしっかりと行う。
- (2) 小テスト等を活用して生徒の学習状況をこまめに把握し、授業改善を行えるようにする。
- (4) 学習者用端末の有効活用にも教師自身のさらなる研鑽が必要である。

5 改善の計画

- (1) 知識の定着に対する意欲が低い生徒が多くいるため、授業内で細かく小テストを行うなどして一回に覚える量を減らし何度も勉強する習慣をつけさせる。
- (2) 実験装置の取り扱いなどに関して、定期的に実技テスト等を行うことで技術を向上させる。それにより実験へ取り組む意欲を高め、安全面に気をつけさせていく。
- (3) 授業内のプリントや定期考査など、文章を書いて説明する機会を増やし、論理的な文章力を高めていく。
- (4) 生徒の発言しやすいような雰囲気づくり、発問を心がける。

6 プランの評価方法

- (1) 授業の取り組み状況や生徒の自己評価を基に事象への興味や関心、学習内容の理解度を確認する。

- (2) 定期考査や確認テストなどの結果を比較分析する。
- (3) 授業アンケートや実技テストを多く行い、知識の定着度をはかる。

令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

音楽科 1年生

1 日常の学習状況について

1年生の音楽科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

- (1) 授業への取り組みは積極的に取り組む姿勢が多く見られる。
- (2) 自己評価表を記入することにより、一人一人の授業を振り返ることができ、理解や表現、技術の向上について、個々へのアドバイスができています。
- (3) 鑑賞の授業では、作曲家や楽曲の解説等を ICT の授業として動画を活用している。鑑賞の能力に関しては、感じる力は柔軟で、素直に表現できている。文章力が乏しく気持ちを表現しきれていない生徒もいる。
- (4) 新型コロナウイルス感染予防により、1学期に「アルトリコーダー」の授業が行えなくなったために「リズム練習」を行った。「リズム練習と表現」については、基礎的なリズムであり比較的良くできていた。なお「アルトリコーダー」については感染症流行の様子を見て導入していきたい。

2 授業での生徒の様子を踏まえて

- (1) 本時の目標やねらいをホワイトボードによっての提示を行っているが、より細かくわかりやすく説明を行う必要がある。また、鑑賞以外での ICT 機器の使用を効果的に取り入れた授業に取り組む必要がある。

3 学力に関する状況

1より、本校の1年生の音楽科の学力については、以下のような傾向がみられる。

- (1) 関心意欲は高く、積極的に取り組める。「歌唱・合唱」の授業では音楽祭とタイアップさせ、パート練習や発声練習など、自主的に活動し、お互いを高め合っていくことがこれからの目標となる。
- (2) 表現の工夫に関しては、自分を素直に表現できる生徒が多い。正確なリズム表現と今後「歌唱」や「器楽」での豊かな表現力を身に付けさせる。
- (3) 定期考査により、授業での内容・質問、ワークシート学習をすることにより、多くの知識を高めることができる。

4 教科の課題

(1) 学習面

- ①「鑑賞」では音楽表現の共通性や固有性を自分なりに考え、曲想と音楽の構造との関わりを理解できるような授業の進め方、教材やタブレット・ワークシート等の使用が必要である。
- ②「歌唱・合唱」は、発声・言葉の発音・身体の使い方等、また「器楽」では、身体の使い方等の創意工夫を生かした表現ができるための技能を身につけさせる必要がある。
- ③「リズム練習」と「アルトリコーダー」については、正確なリズムでの表現ができるように細やかな指導に取り組むようにする必要がある。

(2) 指導面

以下のような指導を行い一定の成果が感じられた。

- ① 「鑑賞」の授業における「曲想の変化や関わり」を感じ取ることができていた。また、「日本の伝統音楽」を親しみその良さを味わうことができ、「鑑賞」への意欲が高まった。
- ② 「歌唱・合唱」、「アルトリコーダー」では、技術を高め、正確な音高と曲想に合った表現力を作れるようにする。また、自分の思いをことばや文章、楽器で表現できるように指導していく。
- ③ 「リズム練習」の指導を全学年統一したものにしていくことにより豊かな合唱や器楽の表現に繋げていきたい。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ①授業に対して、また表現に対して自分なりにどう取り組めたか、自己評価できるようなものを作り、フィードバックを通して音楽の表現を高めていく。
- ②特に「鑑賞」の授業ではホワイトボードやDVD等の視聴覚教材を多く活用して視覚的に解説する事によって理解を深めていく。また、「鑑賞」の動画等タブレットを使用した授業への取り組みを考えていく。

(2) 指導面

①指導計画の見直し

実際の授業の進み具合をもとに柔軟に指導計画の見直しを図り、無理のない指導計画を実施する。

- ②合唱指導において変声時期の幅が広いので、個に応じた配慮を心がけ、自信をもたせて、わかりやすく見通しをもった指導を行う

6 成果の確認

成果については、「定期考査の正答率」や「実技試験での表現」などを確認して改善を行う。

令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

美術科 1年生

1 日常の学習状況について

- (1)授業規律がしっかりしている生徒が多い。準備や片付けも多く生徒がきちんと行っている。
- (2)発想や構想する力を伸ばし、課題に対して考えを深める姿勢を身に付けていきたい。
- (3)知識と基本的な技能を身につけていく必要がある。

2 授業での様子を踏まえて

授業内容や授業プリント等についてなど、おおむねしっかりと取り組んでいる。技能面で表現することに自信がない生徒が多い。

3 学力に関する状況

- (1)授業への取り組む姿勢は意欲的である。
- (2)発想や構想が深める時間が不足していた。
- (3)集中して作品制作に取り組んでいる。

4 教科の課題

- (1) 学習面
 - ①単元内容や基本的な用具の使用法など、きちんと説明し、理解していく必要がある。
 - ②美術を特別なものと考え、日常生活や他の教科の学習とのつながりをもてていない。
- (2) 指導面
 - ①前回の授業の振り返り等に時間がかかる。
 - ②ICT 機器の使用で理解しやすい説明を行うなどの工夫が必要。

5 授業改善について

- (1) 学習面
 - ①課題に取り組みながら、技法や用具に対する理解を深め、生徒の疑問点や理解していない点を出しやすくし、質問や疑問に答えるようにする。
 - ②日常生活との関係ある題材の内容や他の教科とのつながりを意識した課題設定を行う。
- (2) 指導面
 - ①単元の流れを黒板に記し、前回の内容の振り返りをしやすくする。
 - ②技法や制作手順などを、タブレットや実物投影機等の ICT 機器を用いて説明する。
 - ③制作や手順が「なぜそうすべきなのか」を説明し、発想・構想の起点を示す導入活動を行う。

6 成果の確認

年度末に実施する授業評価アンケート、及び作品の評価により検討する。

1 日常の学習状況について

- (1) 全体的に授業への参加状況は良く、体育委員と体育係を中心に集団行動や準備運動を行うなど日頃の授業から積極的に取り組んでいる。
- (2) 授業中の前向きな発言がみられ、意欲的に授業に取り組み、学び合おうとする積極的な行動がみられる。
- (3) 周りへの声掛けや、励ましの声が自然と出る温かさを持っている。
- (4) 苦手な単元に対しての取り組む意欲や、個々の運動能力の差が顕著に表れる。
- (5) 社会環境や生活の変化に伴って、運動の機会の減少などによる基礎体力の低下が課題である。

2 体力調査・アンケート等の結果を踏まえて

- (1) ストレッチ体操や補強運動を正確に行い、柔軟性、筋力の強化を図る。
- (2) ICT 機器や映像資料などを活用し、ねらいを明確にしながら、わかりやすい授業を実践する。

3 体力に関する状況

- (1) 保健体育学習への興味関心は高く、積極的な態度で臨むことができる。
- (2) 運動に参加する意欲は見られるが、基礎体力が低く運動を継続させることに課題がある。
- (3) 運動や健康・安全に関する知識や、自己管理能力が徐々に身に付いてきている。
- (4) 仲間と共に協力して運動に取り組む姿勢が出来てきている。

4 教科の課題

- (1) 学習面
 - ①日常生活の中での体を動かして人と競い合う機会が減少してきている。これにより習い事で日頃からスポーツをしている生徒とそうでない生徒との間に運動体験の差が生まれてきている。
 - ②単元に応じて、安全面に配慮し、ねらいに準拠した指導を行う。
 - ③ICT を活用して動き方を客観的にみられるように工夫をする。
- (2) 指導面
 - ①運動が「好き・得意」な生徒が「嫌い・不得意」な生徒とともに教え合い、学び合える環境をつくる。
 - ②集団行動を重んじると同時に、安全への配慮を意識した指導体制を整える。

5 授業改善について

- (1) 学習面
 - ①授業の開始時と終了時の集合、整列、あいさつを機敏に元気よく行う。
 - ②運動に対する苦手意識をなくすと同時に、ストレッチ体操を取り入れ、基礎体力の向上と運動の基本的な技能の向上を目指す。
 - ③ペア・グループ学習を通して運動の比較、考察を行い、理解を深められるようにする。また集団で学びあう中で運動の基本的なルールやマナーを身に付けるとともに、協力してできるようになった成功体験が味わえるような授業をする。
 - ④学習カードを活用して、運動の苦手な生徒でも体育学習における成果を発揮できるようにする。
 - ⑤保健分野では「健康な生活と病気の予防」に重点に置き、生涯を通じて自らの健康や安全を管理する力を身に付ける。
- (2) 指導面
 - ①指導のねらいを明確にして授業を行い、一人一人の達成状況を授業観察や学習カードから教員が把握し、スモールステップで生徒が課題解決に主体的に取り組めるようにする。
 - ②ペア・グループ学習を取り入れ、仲間と共に積極的に学び合える環境をつくる。
 - ③集団行動を徹底して行い、ケガの防止だけでなく質の高い学習ができるようにする。
 - ④補強運動を強化するとともに、指示や準備・移動を工夫し、運動量を増やすよう努力する。

6 成果の確認

スポーツテストの結果を生かし総合的に体力を付けていく。

令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

技術・家庭科 1年生

1 日常の学習状況について

- 1年生の技術・家庭科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。
- (1) 全体的には授業への取り組みは意欲的で、学びを楽しんでいる生徒が多い。
 - (2) 経験が浅いながらも、班で協力して実習を行うことができています。
 - (3) 課題提出や技能面でサポートが必要な生徒が各クラスに数名いる。

2 期末考査等の結果を踏まえて

時間内に回答できない生徒が複数いた。事前に出題告知した知識を問う問題も、記述の場合は正答率が低かった。また、グラフの読み取りの正答率が低かった。

3 学力に関する状況

- 1、2より、本校の現1年生の技術・家庭科の学力については、以下のような傾向が見られる。
- (1) 知識の定着に課題が残る。
 - (2) 課題提出や技能面でサポートが必要な生徒が一定数いる。

4 教科の課題

- (1) 学習面
実生活における実践的、体験的な活動が不足している生徒が多く、基礎的な知識との結びつきが弱い。
- (2) 指導面
課題提出や技能面でサポートが必要な生徒への配慮が欠けている。また、知識を定着させられるような課題提示ができていない。

5 授業改善について

- (1) 学習面
 - ① 実践的、体験的な活動の充実
生活に即した実習や、授業のグループワークを通し、知識と技能が有機的に結びつくようにする。
 - ② 振り返りの時間の確保
学習内容に対して分かったことを自分なりにまとめ、知識が定着するようにする。
- (2) 指導面
 - ① 特別支援教育の視点に立った教材提示
授業の流れを分かりやすく提示し、見通しが持てるようにする。実習の際は手順を何度でも確認できるようにICTを活用する。
 - ② 振り返り方法の工夫
生徒一人一人が記入しやすいよう、振り返りのプリント形式を工夫する。

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和5年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 観点別学習状況の評価の学期ごとの比較
- (2) 期末考査の結果や作品

令和5年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

英語科 1年生

1 日常の学習状況について

- (1) 言語活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。
- (2) 小学校における外国語の教科化に伴い、話す活動において、意欲的に取り組むことができる生徒が多い。
- (3) パフォーマンステストは特に意欲的に取り組むことができた。
- (4) 「書くこと」に課題がある生徒が多い。

2 中間考査、期末考査等の結果を踏まえて

中間考査は80点以上の生徒が54%、70点以上の生徒が72%と高い定着率が見られたが、期末考査では80点以上が31%、70点以上が46%にとどまった。期末範囲の新出文法事項・単語の定着への課題が見られる。

3 学力に関する状況

- (1) 知識・技能：

思考・判断・表現を支えるための知識がまだ不十分な生徒が見られる。与えられた話題について、相手と話してやりとりを行うことは慣れている生徒が多く、新出語句や授業で扱った文構造を話すことはできるが、書くことができない生徒が多くみられる。多少の誤用はあるが概ねコミュニケーションをとる上で、相手に意思を伝えることはできている。反面、英文を書くことについては文構造の間違いを修正できていないことが多い。

- (2) 思考・判断・表現：

英語を聞いたり、読んだりして目的に応じて必要な情報をとらえることに対しては得意な生徒が多い。

4 教科の課題

- (1) 学習面

- ・既習内容の定着をはかり、語彙力や表現力の向上させるために家庭学習の習慣を確立する必要がある。

- (2) 指導面

- ・発話においては正確な英語の発音やリズム、そしてイントネーションに重点を置いて、教師の後に繰り返しリーディングの練習をすることが必要である。書くことにおいては、既出の文法や表現を自分のことに置き換えて正確に書く機会を増やす。
- ・読解については、自分の力で大まかに理解したり、精読したりする時間を確保する。
- ・新出文法事項を扱うときに既習事項と関連させて扱い、文法知識を混同させないように指導する。

5 授業改善について

(1) 学習面

授業では自ら目標設定をさせ、1回の授業での何をどのくらい学ぶかを意識させる。また表現活動においては、自分の考えを広げ、深めるためにさまざまなメディアに触れ、興味関心を広げ、身近な話題を英作文に生かせるようにする。

(2) 指導面

- ・本時ねらいと流れを明確にし、生徒のゴールを意識して授業を行う。
- ・生徒の書きたい、話したいという意欲をさらに引き出し、即興で話す、与えられた課題での英作文を短時間で書く、自信をもって課題に向き合えるようにする。
- ・リスニング能力向上のため、リスニング教材を単なるテストで終わらせず、シャドーイング、ディクテーションなどで繰り返し、聞くことで、分かる、聞こえる経験を重ねる。
- ・長文読解では、長文も1文、1単語からと、語彙を増やし、速く正確に読む練習を積み重ね、長文読解につなげる。Q&Aを多く取り入れ、読み取りキーワードを探す練習もする。
- ・生徒の学習支援のため、放課後補習や再テストを行い、基礎力のアップに努める。

6 成果の確認

(1) 定期テストの結果、小テストの結果

(2) パフォーマンステストの結果、授業中の作品

(3) 授業中の取組、課題に対する取組、振り返りシートの取り組み

1 日常の学習状況について

- (1) 道徳の年間指導計画に沿って、すべての学級が同じ内容項目、同じ題材を、教科書や道徳ノートその他の教材を利用して指導している。授業者は授業後にノートを確認し、生徒の授業前と授業後の変容を見取っている。ホワイトボードや学習者用端末を使用して、小グループでの意見交換なども取り入れている。意見交換をする際は、様々な考えがあることを生徒たちに実感させるように指導している。
- (2) 「考え、議論する」授業に結びつけていくために、以下のような流れで指導し、定着を図っている。
 - ①価値項目を確認し、題材に触れ、教師の発問に対して自分の考えをまとめ、小グループで意見交換をさせる。
 - ②それぞれのグループの発表からより多くの他者の考えに触れ、発表を通して感じたことをプリントにまとめさせる。
 - ③その後、自分の考えを振り返り、深めさせる。

2 日頃の学校生活の様子を踏まえて

- (1) 1学期は、「主として自分自身に関すること」について取り上げた。「向上心、個性の伸長」や「自主、自立、自由と責任」をなどの価値項目について理解を深めた。学期始めということもあり、「よりよい学校生活、集団生活の充実」についても理解を深めさせた。学校生活やその他の場面で、生徒たちが道徳での学びを生かしよりよく生きることができているかどうか、認め、励ましている。

3 教科の課題

- (1) 学習面
 - ・主な教材として教科書を活用するため、「1つの発問に対して答えが1つ」という先入観にとらわれる生徒もいる。道徳の発問を自分ごととしてとらえ考えさせ、グループで議論することでさらに考えを深化させるイメージをもたせることが必要である。
- (2) 指導面
 - ・道徳科と国語科の求めるところが違うことを本質としてどこまで理解し指導できるかに課題がある。葛藤する場面の問題提起をする発問の工夫をていねいに行う必要がある。生徒が考えを深めるきっかけになる発問をする必要がある。

4 授業改善について

- (1) 学習面
 - ・年間通じて生徒の変容が見られるように、道徳ノートに個々の考えを蓄積する。
 - ・道徳ノートに自分の考えを書くことができない生徒には個別に声をかけ、促す。
- (2) 指導面
 - ・学習後、道徳ノートの内容を丁寧に読み取り、生徒一人一人の変容を適切に評価する。
 - ・指導方法を話し合い、指導者が学級の実態に即して指導できるように指導技術の交流、向上を図る。
 - ・学習者用端末を使って、生徒たちの議論の結果を瞬時にフィードバックする技術を習得する。
 - ・道徳の評価の考え方・進め方について、PDCAサイクルで指導の効果を上げていく。

5 成果の確認

- (1) 授業プリントを授業者がすぐに評価・分析し、生徒の変容を確認していく。
- (2) 授業アンケート並びに学校評価において、道徳の授業について生徒・保護者アンケートを実施する。